

Men's Clothing
YORK

for
the traditional
minded clientele

YORK WEAR INC.

第
23
回

東西四大学

合唱演奏会

第 2 3 回

東西四大学合唱演奏会

1 9 7 4

6月16日(日) 〈7:00PM〉

大阪フェスティバルホール

6月17日(月) 〈6:30PM〉

京都会館第一ホール

主催 東西四大学合唱連盟

御 挨 拶

本日はお忙しいところを、私達の東西四大学合唱演奏会に御来場下さいましてありがとうございます。

1952年の第1回演奏会以来、幾多の困難を乗り越えて、本日ここに23回目の演奏会を迎えることになりました。これも皆様方の暖かい御理解、御支援の賜物と深く感謝致しております。

光輝ある歴史と伝統を持つ遠隔の四校が一堂に会して演奏会を催すことは大変意義深いことであり、単なる発表の場として終ることなく、相互の刺激と励ましとによつての切磋琢磨を通して、高度な合唱精神・合唱技術を身につけ一層の発展を期すと共に、少しでも日本の合唱音楽の向上に役立てばと考えております。

最後にこの演奏会を開催するに当り、御援助、御指導下さいました諸先生、関係者の皆様に厚く御礼申し上げますと共に、今後ともよろしく御鞭撻下さいますようお願い致します。

《関西四大学合唱連盟》

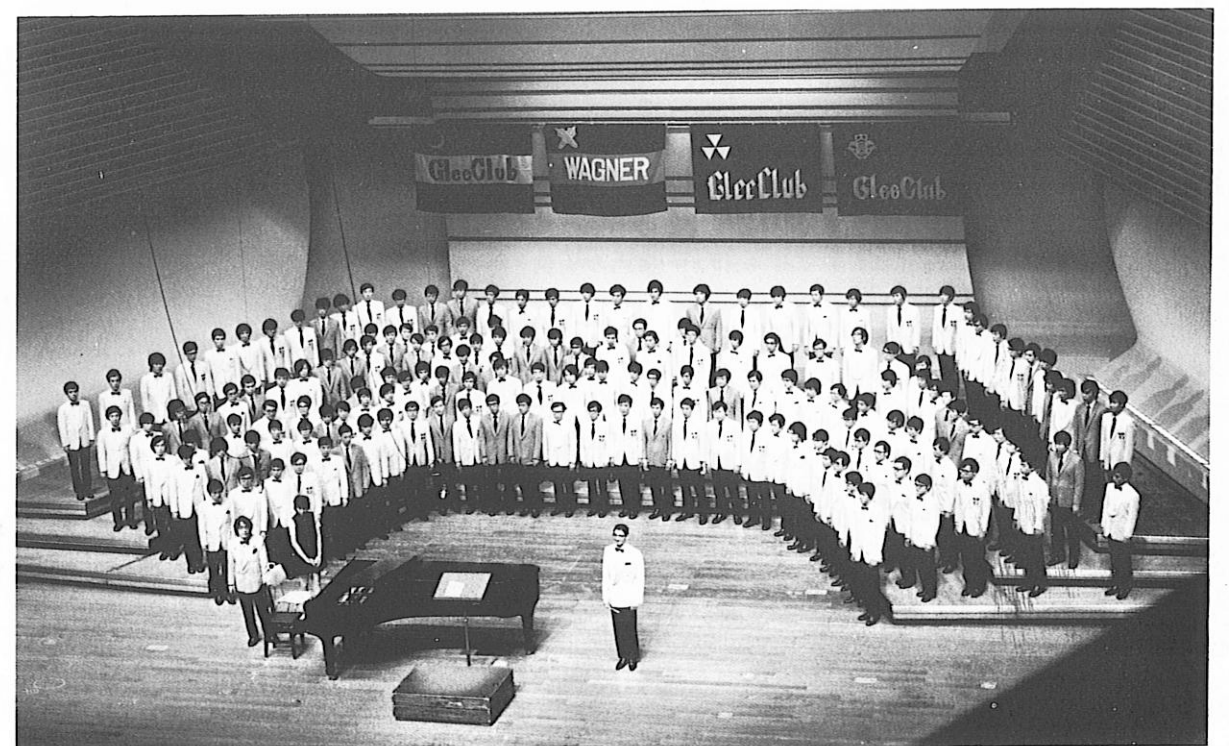
担当マネージャー

木 村 陽 典 (早 稲 田)

平 瀬 芳 雄 (同 志 社)

吉 村 泰 (慶 應)

川 口 宏 史 (関西学院)



MESSAGE

早稲田大学グリークラブ

副会長 上田 稔

今年で23回を迎えた東西四大学の演奏会がこのように盛大に開かれました事は、関係者として非常な喜びであります。

それぞれの合唱団は、それぞれ長い歴史と豊かな伝統を有する独自の合唱団であり、本邦におけるこれらの代表的男声合唱団があい集まって共に技を競い歓を交わすことはまたそれぞれの合唱団に大きな刺激と収穫をもたらさずにおかない。23年という年月を振りかえってみても、混乱と紛争の中で声楽一筋にのびてきたこの東西四大学各校の軌跡に大きな誇りと自信をうかがうことができる。

今宵もまた、彼らが自らの貴重な時間を費して創り上げた「音楽」に惜しめない声援をお願いする次第である。

同志社グリークラブ

顧問 遠藤 彰

同志社グリークラブは、去る4月中旬より1ヶ月にわたり、ニューヨークのリンカーンセンター主催第4回「世界大学合唱祭」に参加し、また米国の代表的諸大学を歴訪し交歓演奏会を持ちました。これは関学グリー・慶応ワグネル・早稲田グリーがすでに経験されたことであり、今回同志社もそのきびに付して参ったわけですが、参加者全員が国際的な檜舞台における強烈な刺激と、世界人類に対する人間的連帯への開眼と、そしてちょっぴり日本の合唱技術への自信とを貴重なお土産として持ち帰りました。思うに東西四連の四合唱団がこれですべてこの収穫に興ったわけで、今後の四連の充実と向上のため、これはまことに得がたいことだと思います。これを機に四連が一層の精神的技術的発展を、日本の合唱音楽の世界に示されるように願っております。

慶應義塾ワグネル・
ソサイエティー男声合唱団

部長 千種 義人

第23回東西四大学合唱演奏会を迎えた事を、心からお喜びしたい。

アマチュア合唱界を代表する、同志社、関西学院、早稲田、慶應義塾の四大学が、毎年一度、日頃養った、それぞれの力を持って演奏会を開く事は非に意義深い事である。昭和27年9月に京都、大阪において第1回の演奏会が開かれて以来、回を重ねるごとにその実力を向上させ、20余年にわたって成長してきた。これを可能ならしめたのは、その時々 of 学生諸君によって音楽に捧げられた情熱であろう。音楽に対するものは、単にこれを楽しむだけではなく、これを進歩させ、かつまた、これを通じて人間自身を高揚させなければならない。相異った環境にある四大学の諸君が、日頃の練習の成果を交歓し合い、お互いに切磋琢磨し合う事は、今後のクラブ活動の上に、プラスになるだけではなく、ステージに立つ学生諸君1人1人の上にも大きな実りがあるはずである。合唱による芸術追求は容易ではない。しかしこの険しい道を、全人的な、真摯な態度と意気を持って歩まなければならない。

このようなことをふまえて今日の演奏会に臨まれるよう期待するものである。今回の演奏会のお世話をいただいた関西学院大学と同志社の方々に厚くお礼申し上げたい。

関西学院グリークラブ

顧問 今田 寛

昭和27年の第1回以来、東西四大学合唱演奏会も回を重ねて今年で23回。当時22才でステージにあった人は今は45才。年はたち、人は変わりますが、良い伝統はそれぞれの時代の若い力によって、それぞれの所で引き継がれていきます。そして年に1度、このように東西四大学相寄って花を咲かせ、友情を交換いたします。まことに美しい流れをみる思いがいたします。

しかしその陰に、良い意味でのライバル意識、合唱界にあって東西のトップとしての認識と誇りが相まって、年々より高い水準へと、合唱と、歌う個々の人格を高めていくための絶えざるきびしい努力のあることを感じます。そして今日の演奏会でその努力の一端が披露されることを思うとき、和気あいあいの中に誠にきびしい一面のあることをも思います。そしてそこに大学合唱団のすばらしさがあるように思います。

素人考えですが、音楽はスポーツとちがって、点数のみで勝敗を決するものでないだけに、それぞれの独自のスクールカラー豊かな発展があるのではないかと思います。どうか文字通り東西を代表する四私学の合唱団が、将来ともにそれぞれのカラーと伝統を失わず、かつまた伝統の中に安住せず、日本の合唱界に大きな貢献をなされんことを念じて止みません。

第23回東西四大学合唱演奏会にあたり心からなるお慶びを申し上げます。

PROGRAM

エール交歓

OSAKA

早 稲 田
同 志 社
慶 應 義 塾
関 西 学 院

KYOTO

慶 應 義 塾
関 西 学 院
早 稲 田
同 志 社

第Ⅰ部

●早稲田大学グリークラブ

ミサ ホ短調

Kyrie
Gloria
Credo

作 曲 アントン・ブルックナー
編 曲 遠 藤 雅 夫
指 揮 小 林 研 一 郎
ピアノ伴奏 竹 前 光 子

●同志社グリークラブ

男声合唱組曲

沙 羅

- 1. 丹 沢
- 2. あづまやの
- 3. 北 秋 の
- 4. 沙 羅
- 5. 鴉
- 6. 行 々 子
- 7. 占 ふ と
- 8. ゆ め

作 詩 清 水 重 道
作 曲 信 時 潔
編 曲 福 永 陽 一 郎
指 揮 福 永 陽 一 郎
ピアノ伴奏 笠 原 進

第Ⅱ部

●慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団

エレミア哀歌

作 曲 バ レ ス ト リ ー ナ
指 揮 木 下 保

●関西学院グリークラブ

男声合唱組曲

雪明りの路

- 1. 春 を 待 つ
- 2. 梅 ち ゃ ん
- 3. 月夜を歩く
- 4. 白 い 障 子
- 5. 夜 ま わ り
- 6. 雪 夜

作 詩 伊 藤 整
作 曲 多 田 武 彦
指 揮 北 村 協 一

第Ⅲ部

●合 同 曲

「十の詩曲」による六つの男声合唱曲より

- 4. 怒 り の 日
- 5. 鎮 魂 歌
- 6. 歌

作 詩 安 田 二 郎
作 曲 D. ショスタコーヴィチ
編 曲 福 永 陽 一 郎
指 揮 小 林 研 一 郎

◎17日(月)は第Ⅰ部と第Ⅱ部を入れ替え。尚、第Ⅲ部はそのまま演奏いたします。

曲目解説

早稲田グリークラブ

——ブルックナーの音楽について——

ブルックナーの音楽への理解は、まず彼の作品を愛しようとする態度から出発しなければならない。文字による解説から彼を理解してかかろうとするかぎり、永久に彼をとらえることは出来ない。歴史的な立場から彼を解釈するのではなく、又批評的な立場から彼の欠点をえぐり出そうとするのではなく、彼の創作の出発点からわれわれも出発しなければならぬ。そして、その出発点とは全ての先入観や立場をすてて音楽そのものに向うことである。

ブルックナーにとって音楽は純粋な意味において魂の言葉であり、人の手に触れざる泉水の清らかさを持っている。現在においても交通のすこぶる不便なアンスフェルデンの片田舎に生まれ、聖クロリアンの清らかな空気の中に自らの音楽をはぐくみ(1824～1856)、リンツ(1856～1868)からウィーン(1868～1896)へ移っても華やかな都の空気になじみえなかったブルックナー、ほとんど新聞も読まず、日々の出来事や政治に関心を持たなかったブルックナー、彼は全く子供の様な素直さを持って音楽を受け取り、培い、育て上げたのである。

このように音楽を純粋に受け取ることは、極めて当然の事ながら我々にはむしろ普通でないことになってしまった。人間の本来にさからう予盾の中に我々はあまりなれっこになっていて、我々の心は汚濁を汚濁としてきらいとすら忘れていて。また、グレゴリオ聖歌から口音階までのあらゆる様式の音楽をひびかせている我々の耳に音として、これらの音の集積の高みから下を見下ろす習慣となっている我々の耳にとって、はたして純潔の音にたやすく耳を傾けることが出来るであろうか。

——ミサ第2番Emollについて——

1866年 作曲終了 1882年改訂

1869年 リンツ大聖堂において、ブルックナーの指揮により初演、ルディギール司教に献呈

ブルックナーの3大ミサとは、この曲の他、第1番D-moll(1864)、第3番F-moll(1867)を指しているのであるが、これら連続して作曲された3ミサは、その名にふさわしく宗教音楽作家として最も脂の乗り切ったブルックナーを感じさせる佳作である。

他の2つのミサが、華美で絵画性を追求したものであると異なり、それまでの偉大な多声楽上のイディオムを用いて成功しているのみならず、この作でブルックナーの和声の精緻さは著しく進歩を示し、管弦楽は背景に押しやられてはいるものの、活動的であって調的にも、遠隔調にまでよくひろがって、よく合唱をささえている。いわば、パレストリーナ風の模倣的ポリフォニーを復活させ、それと彼自身の進歩的和声の調和させた中世的雰囲気のものであるが、たんなる懐古主義に陥っていないところによさがある。

尚、このミサのスコアは、八部合唱と木管楽器のために書かれているのだが、遠藤稚夫氏の男声編曲の力作と、竹前嬢の卓越したオルガン伴奏により初演できる事となった。

厚く御礼を申し上げる。

今宵は、ミサのうち、Kyrie Gloria Credoを演奏する。



早稲田大学グリー・クラブの演奏で使用するハモンド・オルガンは大阪ハモンド・オルガンセンターの協力によるものです。

大阪ハモンドオルガンセンター

梅田センター / 大阪市北区芝田町52 芝田町ビル5階 TEL (06) 371-7291

心斎橋センター / 大阪市南区心斎橋筋2-47 戎橋ビル7階 TEL (06) 211-5873



Think Human

心のままに歩いてみよう

住友生命保険相互会社

〒530 大阪市北区中之島2-16

TEL (231) 8401

「沙羅」と私

同志社グリークラブ

福永陽一郎

信時潔先生の名作歌曲集「沙羅」と私との関係は、かぞえてみると、30年もの長い間続いていることになる。「沙羅」が木下保先生と水谷達夫先生によって初演されたのが、1944年の9月のことであった。(何故か私は、それはもう一年前のことだと、長い間思っていた。それだけ、つまり何時のことだと記憶に残るより前に、ごく自然にこの歌曲集は私の心の中に住みついたのだろう。)この歌曲集は当時の音楽学校の声楽科の生徒をたちまちのうちに魅了しつくしてしまい、この歌曲集を習い、この歌曲集をうたうことは、ほとんど流行という言葉をつかつていいくらい、誰ものがで、必ずしなければならないことのようにされていたものだ。

当時、ピアノ科の一年生だった私は、歌の伴奏が好きで、リートの伴奏をすることに喜びを感じてた頃だったし、この「沙羅」の伴奏部分がたいへん美しい響きを持ち、ピアノという楽器の音の可能性をいろいろ追求できる要素がことの魅力にとらえられてしまった。

「沙羅」の伴奏をピアニスティックに弾くことに熱中し、いつのまにか「沙羅」の伴奏はこう弾かれるべきだという確信を持つまでになっていたのを覚えている。

——或る日、私にも私のクラス・メートにも、戦争に引っぱられてゆく日が来て、今、関西にいて活躍している浦山弘三君と私は、私たちの「現在」を、そして「最後」かも知れないものを記録しておくためにレコードをつくることを考え——それは今のようにテーブ録音という簡便な方法がないときで、スタジオを借り、エポナイト盤にダイレクト・カッティングするという、手間も金もかかる仕事だったが——レパートリーに「沙羅」をえらび、一心に勉強した。「沙羅」の詩と音楽は、こうして私の血や肉と同化したように思えた。(作詩者の清水重道先生は私たちのクラスの国文学の先生でもあったのだ。)

長い年月が流れ、浦山君も私も戦争で死ぬこともなく、少年の日々も「沙羅」をうたった日も、遠く思い出の中に去ってしまったようであった。かつて日本に存在した最高の女声合唱団だったABC放送合唱団の新しいレパートリーのために材料をさがしていた私の頭の中に、突如として「沙羅」がよみがえり、少年の日に血肉に同化していたためだろう、まるでこの曲が自分の身体から湧いて出てきたよう、すらすらとエンピツが働き、わずか3時間ほどで、女声合唱曲「沙羅」が五線譜上に記されていった。この女声合唱用の「沙羅」の編曲は、私の出版された作品の中のトップ・ヒットのロング・セラーであり、世の中には、この歌曲集の「沙羅」がオリジナルの女声合唱曲だと思っている人がたくさんいる。日本合唱協会が「日本の合唱曲・ベストテン」のアンケートをつのったとき、この曲は女声合唱曲としてベストテンにはいりさえたのである。

いっぽう、この曲の初演者である木下保先生は、この歌曲集は、女声合唱でうたわれるよりは、むしろ男声合唱にむいていると考えておられたらしい。先生が指揮しておられる慶応のワグネルに、何度か「沙羅」を男声合唱曲として取り上げるよう、おすすめになっていた。私は、伴奏付のホモフォニックな男声合唱曲というイメージがどうもピッタリとこないで、その編曲を自分でやる気にはなかなかできなかった。しかし、もし他人の手になった男声合唱曲「沙羅」を耳にする羽目になったら、絶対に我慢できるはずはなかった。そこで、木下先生に初演なされたときのソレは結局、私の編曲したものということになった。女声合唱用のときには一切の手を加えなかったピアノ伴奏の部分は、ホモフォニーの男声の響きの中で、まったく別の役割をあたえられることになり、移調をふくめて、全体にかなり多くの改変が加えられた。(木下先生は、この編曲が、あまりに華麗な男声合唱的な効果を持つことが原作の味をそこねると考えられたのか、のちに、より単純化された改訂版をつくられて再演をされた。)

昨年——1973年——、やはり木下先生の門下生で私の旧友である九州在住の佐々木実君が、混声合唱でこの曲をやりたいという希望を持ち、私に話をもちかけてきた。私としては、女声用と男声用がある以上、混声合唱用の編曲を否定する理由は何もなく、しかし、アイデアをまとめるのにかなり手こずりながら、今年の冬の間かって編曲を終えた。これは3月に福岡で初演された。こうして30年間、「沙羅」と私は、切っても切れない縁を持つことになったのである。

京 都 北 部 文 化 圏 中 心 点



慶應義塾ワグネルソサイエティー
男声合唱団

エレミア哀歌

ジョヴァンニ・ピエルルイジ・ダ・パレストリーナ（1525?—1594）については、今更説明するまでもなく、多くの機会に語られている。が、決して多くの事が語られているわけではない。入門音楽的であったルネサンス・バロック音楽ブームもその内容を深めるにつれて、パレストリーナを神格化する信仰もかつてほどではなくなったが、まだまだ彼の知られざる名曲は埋もれたままである。

楽譜が全集版で比較的容易に入手できるにもかかわらず、それには速度・強弱の指定が全く無いため、演奏される作品とはいえば、エディターが手を加えた市販の楽譜によるミサ・プレヴィスやマルチェルス・ミサ等、ほんのひとにぎりの曲に限られているようである。音楽学者諸氏は、どういうわけか非常に謙虚で、原典に「私情」を交えるのを嫌っておられるのか、そのため世の合唱団が、せっかくの宝の山を目の前にして手も出せないでいるのは、まことに残念というべきである。

この所、宗教曲から遠ざかって久しかったワグネルが、冒険ともいえるパレストリーナに取り組んだのはそのような理由による。いわば、実験的エディターを買って出たのである。何事も初めてずくめでありながらも練習を重ねていくうちに、我々にささえまざる発見が出来たように思う。

四年前のコダーイに始まる我々の欧州音楽の旅も、昨年の北欧に続いて、今年はルネサンス期の南欧へとやって来た。ルネサンスは合唱音楽が最も美しく花開いた時代である。後には、かのリヒャルト・ヴェグナーも、パレストリーナの名作スタパート・マーテルを大層愛好し、みずからそのエディターとなったほどである。事実、彼のパルジファル等には、パレストリーナの影響の跡を認めなければならない。ルネサンス音楽は、合唱人たるもの必ず一度は尋ねなければならない、合唱の原点なのである。

カトリック教会では復活祭を三日後にひかえた、最後の晚餐を記念する聖木曜には旧約聖書から「エレミア哀歌」の第一章が朗唱される。エレミア哀歌は民族史上最大の悲劇といわれる「バビロン捕囚」を歌ったもので、全五章からなる内、第一章はイスラエル滅亡の様が「哀歌調」と呼ばれる詩形でつづられている。

パレストリーナの“Lamentationum”は、これをテキストにして、彼の二人の子供の死に際して作曲されたものである。華麗なポリフォニー技巧はここには見られず、全曲、ポリフォニーとホモフォニーが交互にあらわれる、いわゆる「パレストリーナ様式」に貫かれている。

元来三つの朗唱部分から成るこの曲のうち、オリジナルのままを男声で歌うことの可能な第二、第三朗唱を今回演奏するが、第一朗唱を割愛するためそれにかわり、導入部にグレゴリオ聖歌を用いることとした。使用楽譜は、Edizione Fratelli Scalera版のパレストリーナ大全集第十三巻によった。併せてBreitkopf版の全集も参考とした。

＊ ＊ ＊ ＊

Lectio II

シオンの娘の栄華にことごとく彼女を離れ去り、／その君たちは牧草を得ない、しかのようになり、／自分を追う者の前に力なく逃げ去った。

エルサレムはその悩みと苦しみの日、／昔から持っていたもろもろの宝を思い出す。／その民があだの手に陥り、だれもこれを助ける者のない時、／あだはこれを見て、その滅びをあざ笑った。

エルサレムは、はなはだしく罪を犯したので、／汚れたものとなった。／これを尊んだ者も皆その裸を見たので、これを卑しめる。／これもまたみずから嘆き、顔をそむける。

エルサレムよ、エルサレムよ、
汝の主なる神に帰えれ。（第1章6—8節）

Lectio III

敵は手を伸べて、その財宝をことごとく奪った。／あなたがさきに異邦人らはあなたの公会に、／はいってはいならないと命じられたのに、／彼らがその聖所にはいるのをシオンは見た。

その民はみな嘆いて食物を求め、
その命をささえるために、財宝を食物にかえた。／「主よ、みそなわして、／わたしの卑しめられるのを顧みてください。」

「すべて道行く人よ、
あなたがたはなんとも思わないのか。
主がその激しい怒りの日にわたしを悩まして、／わたしにくだされた苦しみのような苦しみが／また世にあるだろうか、尋ねて見よ。」

エルサレムよ、エルサレムよ、
汝の主なる神に帰えれ。（第1章10—12節）

男声合唱組曲「雪明りの路」

関西学院グリークラブ
多田武彦

この組曲は昭和34年（1959年）8月に作曲、翌年1月関西学院グリークラブにより初演された。

北原白秋の「柳河風俗詩」と同様、この「雪明りの路」は、北海道小樽近郊に郷里を持つ伊藤整が、そこに詩の背景を求めて書き、「雪明りをよく知り、永久に其処を辿るあの人々」に捧げた詩集である。

私は以前から、この自由詩形式を主体としたみずみずしい一連の抒情詩の作曲を考えていた。自由詩による歌曲の作曲であるので、それまでの曲想をがらりと変え、「詩を朗読するつもりで語るように歌う」方式や、「合唱のもつ多くの声の量感や叫びや呟き」を随所に用いてみた。1960年7月東京でこの組曲が演奏されたとき、聴きに來られた伊藤整先生から「自由詩と音楽とを見事に結びつけてくれてありがとう。」と云って頂いたことを、今でも嬉しく想い起すことが出来る。

第1曲「春を待つ」は雪の多い暗かった冬のある日、久しぶりに晴れた日光のもとで、春へのあこがれを、語るように歌って行く。

第2曲「梅ちゃん」は、幼な友達の梅ちゃんの家が丸焼けになったときの悲しい思い出を歌ったもので、合唱の量感と、はかないテノールの中間部の流れとを対称的に用いている。

第3曲「月夜を歩く」では、誰もが経験するように、何事を考えるでもなく、とぼとぼと月夜の道を歩く感傷を、北国の情景とともに歌った曲で、終始、担々と、語るように、呟やくように進んで行く。

第4曲「白い障子」は、秋が来て、白い障子がたてまわされたときの、あの環境の変化に対するふっとした気持を、さらっと歌って行く。前3曲と後2曲との間の間奏的な意味をもった曲である。

第5曲「夜まわり」は、目の赤くただれた、黒装束の大顔の夜番の無気味な声の、呟くように繰り返すと、冬の夜の情景とをからみあわせながら歌って行く曲。

第6曲「雪夜」では、はげしい吹雪と、それがだんだん弱まっていつのまにか止んだあとには、案外明るくて、静かであお白い雪明りを、歌って行き、組曲を明るく終る。

皆様のホームドクター



精進堂薬局

新地店 — 北新地永楽町
肥後橋店 — 肥後橋交叉点西入
堂島店 — 堂島地下センター南詰



飛躍！「世界の小林研一郎」へ

音楽界のニュースに少しでも通じている人なら“小林先生は指揮界のホープとして云々”など書いても、何を今さらと思われるに違いありません。先生は、先月、ハンガリーで開かれた「第一回ブタペスト世界指揮者コンクール」において見事に優勝されたのです。

このコンクールは、3年以上演奏活動を行なっている者ということがアプリケーションとなっていて、応募者総数100人余そのうち審査の対象となったのが50人位です。日本からは、外口に留学している音楽家も含めて6人出場しましたが、小林先生がコンクールに出場されることを決心されたのは、応募しめ切りの2月15日を過ぎてからのことで、神津善行氏にお会いなさったのがキッカケだったそうで、直接大使館に電話して応募なさったということです。

さて、審査は、田園、のような古典から“コザイ、のような現代音楽まで巾広いレパートリーの指定の中から、毎日20分～30分の間に1曲B至2～3曲づつけい古をしているところでも、あるいは通しでもかまわず、それを審査されるという形です。コンクールにおいて大変なのは、40曲もの交響曲を暗譜することともさることながら、日本語の通じないオーケストラを指揮することです。「とうとうしまいには日本語がでてしまったよ」と小林先生はニガ笑いされました。

さて、審査員は20名で、そのうち最高点数と最低点数をカットして、総合得点で順位を競うわけですが、小林先生は、第2位と大差で見事第1位の栄冠に輝かれたわけです。

5月15日、リスト音楽院ホールにおいてTV中継が行なわれ、小林先生は「幻想交響曲」を指揮されたわけですが、当日、大使御夫妻も御出席され涙を流して喜んで下さったのです。

来年、ウィーン・フィルオーケストラを指揮なさることになっている先生は、そのほか欧米の著名なオーケストラやオペラを指揮されることになっています。

日本の小林から世界の小林へのジャンプは又、日本の遅れている音楽を世界へ通用するものにするという意味においても大変重要な意味をもっているものと思われます。

今宵は、はじめて東西四大学定期演奏会の合同曲指揮者としてふっていただきます。

我々は小林先生に大声援を送るとともに、先生の棒に一層謙虚にそして貧欲について行こうと意を新たにしています。

慶應義塾ワグネルソサィエティー男声合唱団

第99回大阪定期演奏会

- 日 時 12月1日(日)
- 会 場 大阪厚生年金会館
- 曲 目
 - ・エレミア哀歌 パレストリーナ作曲
 - ・阿 波 三木稔作曲
 - ・チャイコフスキー歌曲集
 - ・さすらう若人のうた マーラー作曲
 - ・その他
- 指 揮 木下 保 畑中良輔 秦 実
- 連絡先 山口健夫 0797-22-5963

フランスより導入の画期的作業システム………〈セントロマチック〉

学生割引 好評実施中！

学生証をご持参ください。メガネ・フレーム共に20%引のおしゃれ



株式会社 梶彦メガネ店

- 宝塚店 ☎(0797) 84-9136
- 梅田店 ☎(06) 341-6481
- 布施店 ☎(06) 782-1301
- ミナミ店 ☎(06) 213-6153

AM.8:00 ~ PM.10:00

高級茶房

目ビ-

大阪・淀屋橋・勸銀ビル

ビジネス街のオアシス!!

曲目解説

4. 怒りの日

血潮は湧きて怒りはたぎる
新たなうけにここに
死せるものだして眠る
湧きあがる激しい心をこめた声……

貧しい民のひくい声
つぶやく折り心こめて
しいたげられし人々は
空の彼方を仰ぎ見る

死にゆきし者に栄えあれ
血塗られたものに安らぎを
聞かずや人よ
しいたげられし民の声 この声を
絶え間なく続く戦いに
逃げるすべもなく かりたてられ
苦しみ今は……はてともなし……
真昼も暗い死せる世界

若者の命 幼な子の命 守りぬけ
逃げるすべなき戦いに
たれのために するいくさか
望みを与えよ わが友よ

答えはなく
静寂を破る足音

あがる砲音 耳をさき
打ちだすためは雨と降り
野原に かばねうず高く
おお このうめきを忘れるな！
死にゆく者の 怒りをもて
敵をたおさん……

血潮は湧きて怒りはたぎる
むごき砲音 まだつづく
血潮は湧きて怒りはたぎる
血潮はながれ 赤黒く
油と泥にまじりゆき
世界のむすこ むすめたち
よみがえらせる すべもなし！
血潮は湧きて怒りはたぎる

5. 鎮魂歌

陽は落ち つつおとも
はやたえぬ
流れし血の色も
なお残る兵士の
あさき夢

倒れししかばねに
悲しみの
うめきをもらしつつ
冷たき風吹きて
わたりゆく

眠れよ やすらかに
我が友よ
東の空白く
明るみぬ

戦い傷つきし
我もまた
新たな戦いに
いでたたん

眠れよ やすらかに
眠れよ 我が友よ

深い霧たちこめる
真夜中に
明日への貯えを
かためつつ

ねむれよ 我が友よ
東の空白く明るみぬ
とこしえに忘れず
汝が誓い

陽は落ち つつおとも
はやたえぬ
流れし血の色も
なお残る兵士の
あさき夢

6. 歌

死せるものに涙もて
悲しむをやめよ
つよく立ちてすすむもの
うけてよ わが歌

倒れし者 過ぎし日の
歌をおもいだせ
胸にもえたつ炎は
怒りを秘めつつ

涙ぬぐい 勇士らの
いさを たたえつつ
もろて高くさしのべて
誓いも新たに

……死せる友の心つぎ
たち上られ いまぞ
地上の平和を求めつつ
いしづえ築かん
世界の幸を求めつつ
手に手をとりあい

まなこひらき 悲しみの
霧の彼方見よ
夜あけすでに近づきて
湧きあふれる歌

ゆけ わが歌 飛びゆけ
翼にのり 飛びゆけ
若きちから 限りなく
すすめ！
ひびけ とどろけ 高らかに
遠く わが歌とどろきゆけ

地の果てまで
若者の世界
若者のねがい
ひびきわたれ

ゆけ この歌 翼をもて！
戦いつきぬけて
すべてのいのちを燃えさせたため
わが歌ゆけ！

山の彼方まで 海の彼方まで
ゆけ わが歌よ 飛びゆけ
明るい陽よ 春の日よ
のぞみ満ちあふれた花咲く日よ

重きさだめ はらわれて
暗闇去りゆき
大地ふかく息づける
希望のいのち 見よ

きけ とどろく海鳴りを
どよもすいかづち
命に眼覚めし春に
湧きあがる歌よ

さやかに朝風は吹き
よみがえる大地
小川の水は青みて
せせらぎは歌う

花さく春の朝に
大空見上げて
われらが声のかぎりに歌う

自由の歌 われらの歌声よ
ひびきわたれ いざ！

そごうの紳士服
ロージェント



ほんものを求める心が生んだ
確かな気ごこち

ロージェント

5階紳士服売場



考えて選ぶ時代
ニューライフ
74そごうのテーマ

大阪心斎橋
そごう

(06) 271-2221

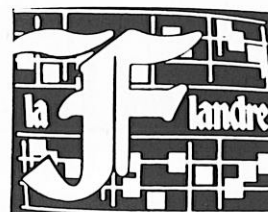
山口 崇

紅茶専門店

ミルクティーのうまい店

Coffee & Tea Spot
FLAVOR

京・烏丸通今出川上ル二筋目西入
TEL. 451-8635



カフェテラス

西宮市松籟荘7-28 TEL 0798 (52) 0502
(小堀マンション甲東園1F)

指揮者プロフィール



慶應義塾ワグネルソサエティー男声合唱団指揮者

木下 保

明治36年10月14日兵庫県豊岡に生れる。大正15年東京音楽学校を卒業。昭和3年同校研究科を修了される。在学中は、ネトク・レーヴェ氏に師事された。昭和8年から10年まで、ドイツ、イタリアに留学され、ドイツではバイセルボン氏に師事された。帰国後は、母校の教授として教鞭をとられるかわり、リート歌手として活躍された。辞任後はオペラにも進出され、「タンホイザー」「ローエングリン」など数多くの初演を手がけられた。又「夕鶴」などに代表される日本の歌曲に対しての非常に卓越した解釈は、他の追随を許さない。現在では、洗足学園大学教授、大阪音楽大学講師として、又、東唱、日本女子大、聖心女子大など、プロ・アマの数々の著名な合唱団の指揮者として、文字通り東奔西走の御活躍をなさっている。ワグネルは先生が音楽学校在学中より40余年あまりお世話になっており、その御尽力により昭和45年慶應義塾の名誉塾員になられた。



同志社グリークラブ指揮者

福永 陽一郎

1962年 神戸に生れる。東京音楽学校(現芸大)本科ピアノ科出身、1951年藤原歌劇団に入団、ピアニスト、副指揮者、合唱指揮者として経験を積む。1956年〜65年藤原歌劇団常任指揮者として活躍、同団の第三次渡米公演に同行。アメリカ、カナダの主要都市での公演を指揮した。1959年、61年、63年、71年イタリアオペラ来日公演には副指揮者、合唱指揮者として参加。歌劇指揮者として、レパートリーは50数種のオペラを持ち、日本屈指のベテランである。

合唱音楽に関して経験が深く、合唱界第一人者の一人である。1952年、畑中良輔氏と共に、東京コラリアーズを創立、日本最高のプロ男声合唱団に育てた。アマチュアコーラスに対する理解と情熱も過去二十年間、断絶することなく持続され、客演指揮、合唱講集会の講師、コンクールの審査員として、全日本的に活躍。又、合唱用の編曲作品は数百曲に及ぶ。



早稲田大学グリークラブ指揮者

小林 研一郎

東京芸術大学作曲科、指揮科を御卒業。
指揮を山田一雄、渡辺暁雄氏に、作曲を石橋真礼生氏に師事された。
安定した力と新しい魅力を備えられた小林先生は、一昨年東京交響楽団のエースコンサートにてデビュー以来、東響、都響、新日フィルなど巾広い活動を通じて、常に楽壇の脚光を浴びています。また、今年4月から5月にかけて、ハンガリーにおける指揮者コンクールに出場されるなど、まさに新進気鋭の指揮者として大活躍の小林先生に我々早大グリーは、絶大なる信頼と尊敬をもっているのです。



関西学院グリークラブ指揮者

北村 協一

昭和29年、関西学院大学経済学部卒業。在学中、関西学院グリークラブの指揮者として活躍。
卒業後、東京コラリアーズ入団。昭和36年、藤原歌劇団にはいり、昭和38年、同団によるブッチャーニ「外套」を指揮し、昭和40年退団。昭和43年、二期会にはいる。
畑中良輔、森正、今村征男の各氏に師事。
現在、二期会専属指揮者。東京室内歌劇場指揮者。

伴奏者プロフィール



ピアノ伴奏 笠原 進

昭和38年 大阪学芸大学特設音楽課程ピアノ科卒業

39年 大阪学芸大学専攻科終了

43年 アメリカ・ノースウェスタン大学音楽院修士課程了

44年 リサイタル(毎日国際サロン)

現在 大阪楽友協会ピアノグループメンバーとして、ブラームス、フォーレ等の作品を積極的に発表。また同志社女子大学音楽科専任講師として指導にあたられる。

関西音楽界では独奏者としては勿論、数少ない本格的な独唱、合唱伴奏者として不動の地位を築かれ、福永陽一郎、畑中良輔、北村協一諸先生から、貴重な合唱伴奏ピアニストと賞讃されております。



オルガン伴奏 竹前 光子

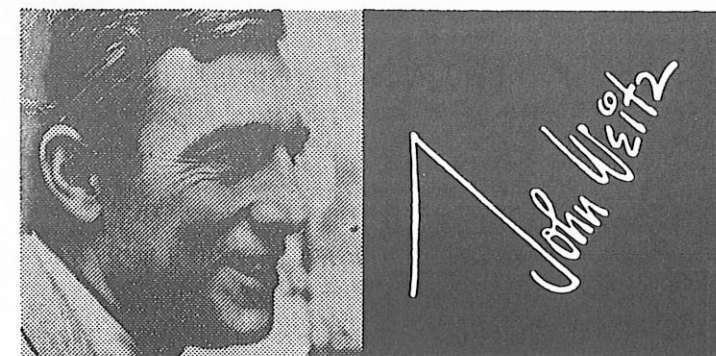
ミュンヘン音楽大学オルガン科卒業

オルガンをカール・リヒター、チェンバロをヘッド・ヴィッヒ・ビルグラムに師事

留学中、レーゲンスブルグ、フルステンフェルドブリュック、ローマに於てリサイタル、大好評を博す。

1972年10月帰国、カテドラル・三河島教会・I.C.U.にて演奏会をもつ。

現在、フランシスカンチャベルセンターのオルガニストとして、御活躍中。



男のマルチファッション

ジョン・グワイツ

<5階>

DAIMARU
SHIJO KYOTO Tel. 211-8111

クラブ紹介

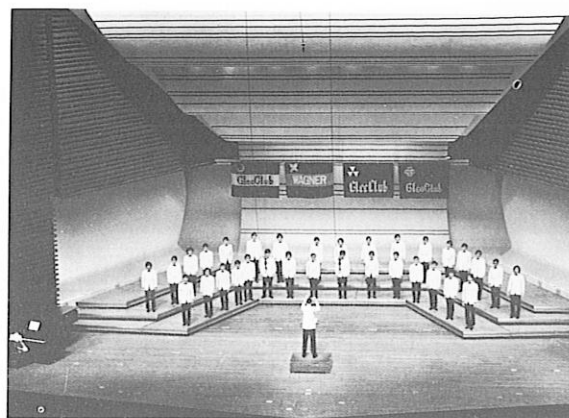


慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団

三田の山に音楽を愛する塾生が集まり、リヒアルト・ワグナーの名を冠し、ワグネル・ソサィエティーを創立したのは明治35年春のことです。翌年、第1回の音楽会を三田演説館で行って以来70余年の間、我々はその伝統を受け継ぎ、新たな前進を続けるべく努力し、幾重もの禍福を経て今日に至りました。昭和44年にはニューヨークで開催された第2回世界大学合唱祭に日本代表として名誉ある招待を受け大成功をおさめることができました。また今年は99回の定期演奏会を東京と大阪で催すことになっておりますし、来年は第100回を迎え、わがワグネルは増々クレッシェンドを続けようとしています。このような幅広い活動が出来るのも、木下保、畑中良輔両先生をはじめ、大久保昭男先生、福永陽一郎、三浦洋一、北村協一の諸先生方の常に変わらぬワグネルに対する暖かい御指導の賜に他なりません。

ワグネルライフの一年間は定期演奏会、東京六大学、早慶交歓演奏会、春夏の合宿、また春は南へ、夏は北へと日本中を歌いまくる演奏旅行、そしてこの東西四大学演奏会とギッシリのスケジュールです。

今後も私達は、過去に学び、現在を見つめ、将来に向って、より高い音楽の創造に目的に前進して行きたいと思っておりますので、皆様方の遠慮のない御批判と以前に変わぬ御声援をいただきますようお願い致します。



同志社グリークラブ

創立70周年を迎えた私達同志社グリークラブは、その目的たる「同志社精神を載し、メンバー相互のメンタルハーモニー・カレッジライフの向上」に不断の精神を続けております。明治34年頃は主として賛美歌を歌う聖歌隊の様なものであったが、明治44年に現名誉顧問片桐哲先生が「GLEE・CLUB」と名付け組織化されました。それ以来70年間、皆様方の暖かい御支援により、特に1000名に及ぶ先輩達、また福永陽一郎先生、大久保昭男先生、笠原進先生方の常に変わらぬ御指導のもとで、私達グリーメンは真摯な気持ちで音楽芸術を追求し続けることが出来ました。今年4月17日より5月16日までアメリカのニューヨーク市にあるリンカーンセンターで行なわれた第4回世界大学合唱祭に日本代表として参加し、アメリカ国内をも演奏旅行してまいりました。人間、一人一人の容貌、性格が違う様に異なった思い出を胸に秘め帰国してまいりましたが、一つ共通して言えることは世界各国から参加して来た合唱団の人々と音楽、そして生活を通して、心と心との語り合いが出来たことと固く信じております。私達同志社グリークラブはこの契機を確実に生かし、より一層の音楽芸術を作り上げてゆく次第であります。



早稲田大学グリークラブ

歌の好きな早稲田のバンカラ学生が集まってコーラスを始めたのは遠く大正年間にさかのぼり、それが現在のグリークラブの前身です。

その長い歴史と伝統、そして多彩な活動は、学内外を問わず常に注目の的となっています。当四連をはじめ、東京六連、早慶交歓、定期、Farewell、そして夏期の演奏旅行、テレビ出演など総勢百余名の部員は多忙なグリーライフを送っています。

楽界の若きエース小林研一郎先生を常任指揮者にお迎えして2年目、そして、金谷良三先生、鹿野道夫先生という素晴らしいヴォイストレーナーに御指導を賜る我々は、まさに新しいハーモニーを、「早稲田トーン」を創り出そうと毎日練習に励んでいます。

グリーは変身していきます。構成メンバーも毎年変わっていきます。しかし、いつまでも変わらないのは男声合唱を純粋に愛する若者の情熱です。この情熱がある限り我々はグリーの発展を信じて努力していくつもりです。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



関西学院グリークラブ

関西学院グリークラブがわが国最古の男声合唱団として誕生したのは、1899年のことでした。以来75年間、学院の宗教的雰囲気と内外の暖かい御指導、そして何よりも歌うことの好きな幾多の先輩達の努力によってはぐくみ育てられてまいりました。私達は、この長い歴史の中で、たった4年間しか在籍することが出来ませんが、その間の一つ一つの行事を常に大切に輝かしい一ページを作り上げようと不断の努力を重ねております。

移り変わりの激しい現代社会において、一つの団体の確固たる形態を維持することは容易ではありません。関西学院グリークラブも又、その例外ではありません。時の流れと共に日々変化しつつあります。しかし、その中でただ一つ「メンタル・ハーモニー」の信念だけが常に底流に流れております。昨年4・5月に4度目の海外演奏旅行として、ヨーロッパ各地を訪れ、各国の人々と合唱を通じた心と心のふれ合いを部員各々は深く胸に刻み込んでまいりました。

今後も、林雄一郎先生、北村協一先生、畑中良輔先生、大久保昭男先生の御指導のもとに、より輝かしい歴史の一ページを飾るべく努力するつもりでございます。

神戸の生んだ
ハイセンスな **ゴルフ店**

株式会社 富士スポーツ

メトロこうべ店
高速神戸駅地下街
078(341)2215(代)

さんプラザ店
三宮センター街
078(391)1356(代)

Gift Shop (コンベ商品の店)
サンプラザビル2階
078(331)1308

本社卸部 神戸市灘区八幡町2丁目9-14 TEL. 078(842)1331(代)
商品配送センター TEL. 078(851)2711(代)

協 賛

大 和 銀 行

太陽のお買物 **イズミヤ**

暮らしにうるおいを

イズミヤは“よい品を安く”をモットーに、食料品
家庭日用品、衣料品、電器・家具の販売を通じて
明るい豊かな社会づくりを願っています。



チョットだけ

超えてる男 求む

青春の真っ盛り、1浪2浪ひっかぶり、
くやし涙をのんだ人。会社乗っ取りの
野望に燃えてる人。
やけに女にモテる人。鶴を鳥の口八丁。
つまり、超えてるなにかを持ってる人。
イズミヤはそんな人を求めています。

書類締切日／6月20日

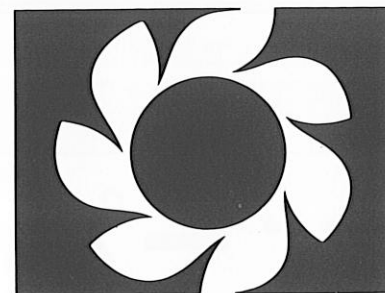
試験日／7月1日

試験場／東洋ホテル ☎06(372)8181

大阪市大淀区豊崎西通1-21-1

■お問合せは

いづみや(株)人事部採用部 TEL 06(659)1311



イズミヤ

大阪市西成区花園南1丁目4番4号

関西学院大学正門前

珈琲専門店 トップ珈琲

独特のトップブレンド珈琲と8種類のストレート珈琲で珈琲通の〈心〉をとらえる。

世界の味をお届けする

株式会社 トップ珈琲

西宮市上甲東園3丁目9番10号

電話 0798-52-7481・7368

喫茶部 52-9980

写真ができたら——
コクヨ
アルバム
★文庫版、カメログ、デパートでお求めください。



写真の整理は大変です。
でもキチンと整理しないと
せっかくの思い出もだ
いなし。アルバムのサイズ
を揃えることも整理を簡
単にするコツといえます。
コクヨアルバムなら、結婚
式、家族旅行、お子様の
成長記録など、シリーズ
でわが家の思い出づく
りを楽しめます。

コクヨアルバムでつづる——
わが家の写真集

 **コクヨ株式会社** / 〒537 大阪市東成区大今里南6丁目1の1 ☎(06)976-1221(大代)

東西四大学合唱演奏史

第1回	昭和27年9月21日	同志社栄光館	第13回	昭和39年6月13日	京都会館ホール
	9月22日	大阪産経ホール		14日	大阪フェスティバルホール
		合同演奏「Ave Maria」「愛でし友」			合同演奏「Credo」
第2回	昭和28年9月20日	日本青年館ホール	第14回	昭和40年6月19日	東京文化会館
		合同演奏「いざ起て戦人よ」「おお美しき星よ」「希望の島」		20日	東京文化会館
					合同演奏「蛙の歌」
第3回	昭和29年9月18日	同志社栄光館	第15回	昭和41年6月13日	京都会館ホール
	19日	大阪産経ホール		14日	大阪フェスティバルホール
		合同演奏「Zum Gloria」「Zum Sanctus」「秋のピエロ」			合同演奏「枯木と太陽の歌」
第4回	昭和30年9月18日	日本青年館ホール	第16回	昭和42年6月24日	東京文化会館
		合同演奏「Die Nacht」シューベルト「詩篇」103篇 Wedianita		25日	東京文化会館
					合同演奏 歌劇『フィデリオ』より「囚人の合唱」
第5回	昭和31年9月15日	宝塚大劇場			歌劇『さまよえるオランダ人』より「水夫の合唱」「幽霊船の合唱」
	16日	同志社栄光館	第17回	昭和43年6月22日	京都会館ホール
第6回	昭和32年6月23日	日本青年館ホール		23日	大阪フェスティバルホール
		合同演奏「春が来たかと」「ふるさと」			合同演奏「阿波祈祷文」「黙示」
第7回	昭和33年6月21日	同志社栄光館	第18回	昭和44年6月22日	東京文化会館
	22日	大阪毎日ホール		23日	東京文化会館
		合同演奏「Rock a my soul」「What kind a shoes」			合同演奏「デュオバのミサ」より「Kyrie」「Credo」「Agnus Dei」
		「Never said a mumbarin' word」	第19回	昭和45年10月26日	大阪フェスティバルホール
		「Joshua fit de battle of Jericho」		27日	同志社大学学生会館ホール
第8回	昭和34年6月21日	共立講堂			合同演奏「海の構図」
		合同演奏 山田耕筈作品集「からたちの花」「待ちぼうけ」「あわて床屋」「ベチカ」	第20回	昭和46年6月26日	東京文化会館
第9回	昭和35年6月25日	京都会館ホール		27日	東京文化会館
	26日	大阪フェスティバルホール			合同演奏「Hymne An Die Musik」
		合同演奏「兵士の合唱」「巡礼の合唱」	第21回	昭和46年7月1日	京都会館ホール
第10回	昭和36年6月17日	東京文化会館		2日	大阪フェスティバルホール
	18日	東京文化会館			合同演奏 歌劇『フィデリオ』より「囚人の合唱」
		合同演奏「枯木と太陽の歌」			歌劇『さまよえるオランダ人』より「水夫の合唱」「幽霊船の合唱」
第11回	昭和37年6月23日	京都会館ホール	第22回	昭和47年6月23日	東京文化会館
	24日	大阪フェスティバルホール		24日	東京文化会館
		合同演奏「Listen to de Lambs」			合同演奏 男声合唱組曲「海の構図」
第12回	昭和38年6月22日	東京文化会館			
	23日	東京文化会館			
		合同演奏「若者の歌」			



魅惑の館 優雅な社交場

くわしくは右記へ 京都府乙訓郡大山崎町〒618
☎075-961-002・0003・1201(代)
●国鉄山崎駅・阪急大山崎駅より歩いて7分(200m)
●京都駅より車で25分(15km)
●大阪駅より阪神高速扇町入口から高槻経由 車で40分(30.3km)
●大阪空港より名神茨木IC経由 車で45分(34.3km)

♪ 会員募集中 ♪



メンバーズ・クラブ
大山崎山荘